

感染爆発 五輪より命が大切 日本共産党 コロナ封じ込めへ4つの転換を

コロナ感染が急拡大。8月も東京で新規感染者が過去最多を更新し続け、医療崩壊も深刻です。緊急事態宣言を出しながら五輪開催を強行したことが誤ったメッセージとなり、新たな人流を招くなど感染抑止への重大な障害を

作っています。菅政権の責任は重大です。東京五輪は今からでも中止し、コロナ対策へ集中すべきです。

コロナ封じ込めには、無為無策・逆行のコロナ対策からの大転換が必要です。共産党は4つの転換を求めました。

共産党区議団



8回にわたり緊急要望

菅自公政権



濱野区政



共産党 の提案

提案①

東京五輪中止

「五輪より命」
の立場で

大会中止を 求め続ける

区民と共に五輪中止や子どもの観戦中止等を求め続け、五輪のパブリックビューイング・聖火リレー中止、学校連携観戦はオリ・パラが中止となる。

開催強行し感染拡大

「中止は簡単、挑戦するのが政府の役割」と緊急事態下で開催を強行、感染の急拡大を招く。

「大会成功が 区の役割」

「都や大会組織委員会と連携して大会を成功させることが区の役割」(区長)と、最後まで開催に固執。

提案②

ワクチン

安定供給と
正確な情報提供

在宅接種の 体制整備を求め実現

高齢・障害・保育施設、学校現場への優先接種や、寝たきりの高齢者など在宅接種の体制づくりを繰り返し求め、訪問診療医による接種が実現。

供給の責任を放棄

「7月末まで高齢者の接種を完了せよ」と体制整備を急がせながら一転、ワクチン供給を減らし、予約の一時中止など自治体に混乱をもたらす。

区民に混乱と負担

電話やネットが繋がらない、集団接種会場の偏在。供給不足から集団・個別接種の予約が一時中止になるなど、区民は混乱と負担を強いられた。

提案③

PCR検査

ワクチンとセットで
大規模に

検査の必要性と拡充を 繰り返し主張し一部実現

「無症状感染者の早期発見・保護こそコロナ対策の基本」と検査の拡充、保育園・学校職員への定期的な実施を要望。介護・障害者施設で一部実現。

検査を抑制し続ける

「検査を広げると医療ひっ迫になる」と通知を出し抑制。東京でも実施数は検査能力のごく一部にとどまり検査数は世界で人口比140位。

保育園・学校への 定期的検査は実施せず

今年度に入り、保育園3園で休園、学校でも3校で学年・学校閉鎖と、感染が拡大。しかし職員への定期的な検査の実施は拒否。

提案④

補償

自粛は十分な補償と
セットで

区民の声を届け 区独自策を強く求める

協力金が未だ届かず「生きるか死ぬかの瀬戸際」(飲食店主)など切実な声を示し、区独自の家賃等の直接給付を求める。

補償は1回で打ち切り

緊急事態宣言は4回出したにも関わらず、持続化給付金・家賃支援給付金は1回で打ち切り。緊急小口資金等は期限を切って打ち切り。

直接給付に背を向ける

国からのコロナ対策交付金は使い残して区の貯金へ6億円積み増しながら、困窮する事業者・区民への区独自の追加給付については「実施する予定はない」と拒否。

ご意見・ご要望を
お寄せください

日本共産党
品川区議会報告

発行:日本共産党品川区議団
2021年8月号 発行責任者:中塚 亮
TEL.5742-6818(直通) FAX.3778-3088
ホームページ 共産党品川 検索

羽田新ルートは中止を 落下物、横風の危険 事故が起こってからでは遅い



立会川の商店街で現地調査

国が設置した固定化回避検討会はA・C滑走路への着陸を前提に

国の検討会は、まやかしの

羽田新飛行ルートの実施から1年余。住民からは「断続的に繰り返す騒音を聞くと、怒りと悲しみが込み上げてくる。慣れるどころかストレスが増すばかり。家庭内で笑いが消えた」などの声があがっています。

パイロットも危険性を指摘

パイロットの自発的報告制度「VOICES」には南西の強い横風を受けながらの着陸について「とても不安定で経験したことのない揺れ」など羽田新ルートの危険性を指摘する報告が15件も上がっています。同ルートで年間10件以上報告があるのは初めてのことで、パイロットからみても新ルートの危険性は明らかです。

加えて各地で落下物も相次いでいます。今年2月には同日にアメリカとオランダでエンジン損傷による大きな落下物が発生。昨年末に那覇発、羽田行き飛行機から10kg以上の部品が落下。落下物事故は現実的な危険です。

共同広げ新ルート止める

品川区議会、国会に続き、都議会でも羽田新ルート見直しの議員連盟をつくり、都議選で反対議員を増やすことができました。今後、議連の参加者を増やすなど共同を広げ、羽田新ルートを止めるために力を尽くします。



白石たみお都議

危険な羽田新ルートの撤回へ引き続き全力をあげます。

しており、着陸寸前の品川区の上を飛ぶことは避けられません。元機長で航空評論家の杉江弘氏は「大型機は小回りが利かず、安全に着陸するために最後の直線は必要であり、品川の上を通ることになる」と断言。「固定化回避」と区民を欺き、結論をスルスルと先延ばしして被害を押しつけ続けることは許されません。

危険な羽田新ルートの撤回へ引き続き全力をあげます。

外環道工事の陥没事故で安全神話が崩壊

工事前の今こそ リニア新幹線は中止を

品川駅発のリニア中央新幹線は北品川の立坑が完成し、シールドマシンによるトンネル工事が目前に迫っています。

事業者のJR東海はリニアについて「40m以上の大深度地下工事は地上に影響がなく安全」と説明してきました。しかし昨年10月調布市で、大深度地下による外環道トンネル工事において真上の住宅街の道路が陥没、30mもの空洞も3か所発見される事故が起き、安全神話が崩れました。振動、壁のひび割れ、噴砂現象などが起き、住民は以前から危険性を指摘していた末の事故でした。



5m×3m、深さ5mの調布市の陥没

6月にリニアの説明会がきゅりあんで開かれ、JR東海は「調布市の事故は特殊な地盤とずさんな工事管理によるもの。リニアの地盤は安全で、工事管理をきちんと行うため事故は起こらない」と説明。しかし、土木の専門家は「地下のことは分かっているのはごく一部。掘ってみないと何があるか分からない」と言います。

区議会で共産党は工事の危険性を指摘し今こそ中止を、と求めました。しかし区は「事業者において工事が安全に実施されるべき」と説明。区民の不安や事故への危険について何ら責任を負う姿勢がありません。

そもそもリニアに必要性はなく、環境破壊も深刻。トンネル工事着工前の今こそ中止すべきです。

ついに実現!

手話言語条例



念願がやっと叶ったと当事者から喜びの声が上がっています。

聴覚障害者団体等から繰り返し要望が出されていた手話言語条例が品川区議会において全会一致で可決、成立しました。

手話は学校での使用を禁止されるなどつらい歴史があり、品川区で手話を言語と認める条例ができたことは画期的です。条例は主に手話に対する理解の促進と普及、環境整備を推進するという区の責務を明記したものです。

今後は手話を学ぶ機会の確保や学校における手話の普及、手話通訳者の確保・養成等、手話を使いやすい環境の整備、事業者への支援などを実施し、実効性あるものにしていくために力を合わせましょう。

生活相談はお気軽に 日本共産党 品川区議団

